

トピック

溜池の有効利用 (太陽光発電システム)

平成28年4月1日から電力小売りの「全自由化」がスタートし、「低圧」区分の家庭や商店などにおいても電力会社が選べるようになった。小売電気事業者は、ガスや石油元売り、通信など幅広い業種から参入が相次ぎ、登録事業者は260社を超える。自由化の狙いは市場競争を通じて電気料金（小売価格）を引き下げるところであるが、低減は成功するだろうか。まず制度を理解し、自宅の電力消費量に照らし小売事業者のメニューから電気代を比較検討するステップ 자체が大きなハードルであり、「急いでは事を仕損じる」と肝に銘じておきたい。

「家庭の電気代を下げたい」との思いは誰もが願うこと。エアコンを使用した月の請求額を確認し、家庭の財布を預かる主婦がため息をつく姿を想像する。この電気代を抑えるため「太陽光発電システム（P.V.）」を導入した家庭も少なくない。導入時は当然、現状と比較し納得して設置したと思うが、初期投資額を含め、トータルとしてコストは下がったのだろうか。導入時の国や自治体からの補助金制度、また余剰電力買取制度で、平成24年以降、普及率が高まってきたはいるが、全住宅戸数に対するP.V.の導入実績は約6%である（一般社団法人太陽光発電協会公表資料）。

P.V.を見かける機会が年々多くなってきていることに気づいている。山の斜面に、またかつては畠であった土地等だ。設置は時代の流れであると理解するがなぜか違和感がある。最近は「地面」にではなく、「水面」にもP.V.が設置されてきている。「水面」とは、溜池である。

日本の溜池の歴史は稻作文化と深く結びつき、弥生時代には存在したといわれる。水田の灌漑を目的に、水を貯え必要なとき使用するようにする。日本最大の溜池は、満濃池。溜池の数は日本全国に約21万ヶ所があり、そのうち瀬戸内地域で全国の約6割を占めるという（農林水産省の調べ）。満濃池に相次いで設置が進んでいるP.V.。三位香川県、四位大阪府、五位山口県）。

溜池に浮かべた太陽光パネルは約9000枚、一般家庭820世帯に相当している兵庫県加西市の逆池を訪れた（写真1）。池に浮かぶ太陽光パネルは規則正しく並ぶ



写真1 面積約7万m²の逆池
その3分の1に太陽光発電パネルが規則正しく並ぶ

世界最大級の水上メガソーラーが設置されている。池のまち大阪狭山市では、ため池の近くにプラントを建設し、太陽光発電の水で生成した水素を使った発電事業（水素発電）が始まるという。具体には大鳥池近くにプラントを建設し、太陽光発電でつくった電気を使い、ため池の水を電気分解させて生成した水素で発電を行う。溜池に浮かべた太陽光パネル、また池の水を利用して水素発電などのクリーンエネルギーが普及していく時代。今後の普及や技術の進展を見守りたい。

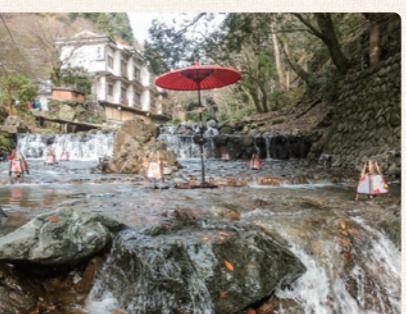
本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。

インターネット環境をお持ちの場合は、<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/>においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。

誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は行っておりませんので、ご了承ください。



編集担当が「鴨川」を取材中撮影した、厳選写真をご紹介します！



「京の奥座敷」貴船の清流、貴船川



外国人にも人気の高いスポット祇園花見小路

鴨川
スケッチ



植物油インキを使用しています。
この印刷物は再生可能な紙を使用しております。

水 が語るもの

川
シリーズ

一二〇〇年の歴史に彩られた
古都京都の文化を育む

水ものがたり
京都の水インフラ

世界の水 水辺空間を生かした都市再生
—英国の事例より(2)—

近畿の水名橋

水と文学 文化遺産としての溜池

昭和10年京都大水害と13年阪神大水害

うおーたーねつと 水都大阪と幻の大坂大國技館(4)

水と土木がある風景

砂防堰堤～河川上流から下流まで一時にどらえ土砂災害から守る～



川

水
が語るもの

第12号 平成28年5月発行(年2回発行)

編集・発行

一般社団法人近畿建設協会 技術部
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル13F
TEL 06-6941-3413 FAX 06-6910-5953
URL <http://www.kyokai-kinki.or.jp>

「水が語るもの」はインターネットでもご覧になれます。
<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/>

水が語るもの

検索

水が語るもの



表紙写真

京都府京都市左京区 鴨川「半木の道」

目次

3

6

10

12

14

18

24

26

28

水ものがたり
京都の水インフラ I

京都工芸織維大学 副学長 教授 小野 芳朗

川シリーズ
1200年の歴史に彩られた古都京都の文化を育む 鴨川一般社団法人 近畿建設協会・技術顧問
元大阪産業大学教授 中野 雅弘世界の水
水辺空間を生かした都市再生 一英国の事例より(2)-近畿の水
名橋水と文学
文化遺産としての溜池

評論家・文化プロデューサー 河内 厚郎

昭和10年京都大水害と13年阪神大水害

工学博士 宮井 宏

うおーたーねっと
水都大阪と幻の大坂大国技館 (4)水都の会 城北川プロジェクト
代表 藤井 薫水と土木がある風景
砂防堰堤～河川上流から下流まで一体的にとらえ土砂災害から守る～

トピックス・鴨川スケッチ



京都の水インフラ I

京都工芸織維大学副学長教授 小野 芳朗



(賀茂別雷神社の通称)は、その社領

の田地へ供給する水の樋門(井手)の開閉に係る権限を有していた。つまり、

賀茂川水系の水脈は、堀川、小川も含め、上賀茂一社の支配下にあった。そ

の最下流に明徳以来、禁裏御所である土御門里内裏と公家町が位置していたことになる。したがって御所の水の分

京都の近代化には琵琶湖疏水は必要であった、と諸説は言う。なぜ、必要だったのか。結果的に疏水は水力発電の源となつた。そして電力は近代工業の動力源となつた。だから、近代化に必要だったのである。そして疏水開削から二〇年後、今度は京都市の衛生状態改善のために水道目的と疏水の役割は変わり、現代までの百年の歴史をもつ。

さて、疏水の効用をこの結果から

みた歴史だけで語られていいのであ

るうか。疏水開削の目的は諸説なら

びに刊行本の伝えるところにより、

明治十六(一八八三)年の起工趣意書

に遡る。それには製造器械、運輸、

田畠灌漑、精米水車、防火、井泉、

衛生と書かれている。

実は当時の京都盆地は慢性的な水

不足にあいでいた。地下水は豊富

である。しかし、量的に市街地周囲

の田畠を潤すほどのものはない。江戸時代に何度も火災で焼けた市街地

新聞は京都を称揚し「山紫水明の地」

二八(一八九五)年の寶都千百年紀年祭が終わった後の十一月、京都日出

中世から近世にかけて橋本は、賀茂別雷神社文書の調査より上賀茂社

は御溝水、御河水とも呼ばれ、近代には御所御用水とも呼称されている。

中世から近世にかけて橋本は、賀

茂別雷神社文書の調査より上賀茂社

は御溝水、御河水とも呼ばれ、近代には御所御用水とも呼称されている。

中

二人おり、六郷には水役人が置かれていた。御所の北に位置する小山村にも水役人は一人置かれ、御用水役も兼ね、その任免権は上賀茂社にあつた。

当時の御所用水のルートは明治以降もほぼ変わらない。図1に、明治二三(一八九〇)年琵琶湖疏水建設以前の疏水と御所用水のルートを示す。線の太いものが水路である。このうち御所用水は小山村から室町頭、つまり室町通の北端、洛中へ入る点から、上御靈社の周囲を経て相国寺境内を通過し、今出川御門に至っている。



図1 琵琶湖疏水と御所用水(大正5年)
知令を以て終焉する。上賀茂社領の支配は、明治四(一八七二)年の上

要望により、小山郷へ水を下げよと命じても、田地用水に廻したと、賀茂社と小山郷の間で争論が起こつてゐる。しかも小山郷は上賀茂社領に拘らず、百姓たちは直接御所に訴え出て水を田地へ流した。かつ、旱魃の際は小山郷の百姓どもが大勢集まり、川端を新たに掘り切つた。

近世までの上賀茂一社による水脈の支配は、明治四(一八七二)年の上賀茂社の社領である村方が、上賀茂社の指示に従うとも限らなかつた。寛永一〇(一六四三)年御所側の要望により、小山郷へ水を下げよと命じても、田地用水に廻したと、賀茂社と小山郷の間で争論が起こつてゐる。しかも小山郷は上賀茂社領に拘らず、百姓たちは直接御所に訴え出て水を田地へ流した。かつ、旱魃の際は小山郷の百姓どもが大勢集まり、川端を新たに掘り切つた。

よりの水量は、御所分として一応認められていた。その水量は、上賀茂社の支配から宮内省に移る。この支配の変更により、御所への用水水量が安定的に確保できるようになつたであろうか。

二 明治四年以降の御所用水

(一) 水の支配の変遷

上賀茂社の支配した水脈、御所用

水の支配権、そして水利権の変遷については、その中世以来の経緯が明治十二(一八七九)年の記録に上賀茂・小山両村より府知事宛の上申書中に記録されている。

御尋ニ付上申書

一 御所御用水流通水掛り之儀者、賀茂別雷神社旧一社ニテ支配被致候ニ付、御用水乏敷相成候節者、御花壇奉行ヨリ、此旨一社江被達候ニ付テハ、一社ヨリ賀茂川筋水掛り之村々江、御下ヶ水分之儀ヲ相達し、一社川掛り役人并上賀茂村水役武人ニテ、村々水役該村井先ニテ分水之儀、立会受取(後略)

ならびにその支配していた水面は官有地となつた。小山郷に存在した水路は、土地台帳でみる限り、この地が昭和初期の区画整理によつて宅地化していく以前は、「大蔵省」の所有地である。そして、賀茂川井手の支配から宮内省に移る。この支配の変更により、御所への用水水量が安定的に確保できるようになつた。水の支配権、そして水利権の変遷については、その中世以来の経緯が明治十二(一八七九)年の記録に上賀茂・小山両村より府知事宛の上申書中に記録されている。

京都府知事 横村正直 殿(三)

これによると、近世の賀茂川は上賀茂社一社の支配であり、宮中の御花壇奉行、即ち庭園の管理担当者より水不足の時は上賀茂社へ照会がいく。上賀茂社では「川掛役人」に対しても、日々に「御下ヶ水」を分けるように指示し、この川掛役人と村の「水役」が「井先」で分水に立ち会うことになつていて、水役とは、川筋から用水筋への流入口「井手」を管理する村方の役で、その用水から御所用水への「井先」も管理していたが、田地を優先して「自供」に引水することは禁じられていた。

同組戸長 鈴木元徳 印

(後略)

愛宕郡第式組上賀茂村旧戸長 神戸捨松 印

同郡同組小山村旧戸長

内藤宗兵衛 印

前書之通相違無御照会伏而奥印仕候以上

同組戸長 鈴木元徳 印

京都府知事 横村正直 殿(三)

賀茂社一社の支配であり、宮中の御花壇奉行、即ち庭園の管理担当者より水不足の時は上賀茂社へ照会がいく。上賀茂社では「川掛役人」に対しても、日々に「御下ヶ水」を分けるように指示し、この川掛役人と村の「水役」が「井先」で分水に立ち会うことになつていて、水役とは、川筋から用水筋への流入口「井手」を管理する村方の役で、その用水から御所用水への「井先」も管理していたが、田地を優先して「自供」に引水することは禁じられていた。

村々に「御下ヶ水」を分けるように指示し、この川掛役人と村の「水役」が「井先」で分水に立ち会うことになつていて、水役とは、川筋から用水筋への流入口「井手」を管理する村方の役で、その用水から御所用水への「井先」も管理していたが、田地を優先して「自供」に引水することは禁じられていた。

賀茂川左岸の下鴨村へ四分、右岸の小山村へ四分、御所へは二分と定められていた。つまり、御所用

地用水への禁止を強く押し出したことは、引水の御所優先の原則が、必ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により渴水を生じた場合には、宮内省へ伺いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

苗の植付時に御用水を田地用水にみだりに分割することを禁じている。

明治十三年時には渴水時の御所優先を命じてあつたが、十七年のこの田

地用水への禁止を強く押し出したこ

とは、引水の御所優先の原則が、必

ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により

渴水を生じた場合には、宮内省へ伺

いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許

可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

苗の植付時に御用水を田地用水にみだりに分割することを禁じている。

明治十三年時には渴水時の御所優先を命じてあつたが、十七年のこの田

地用水への禁止を強く押し出したこ

とは、引水の御所優先の原則が、必

ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により

渴水を生じた場合には、宮内省へ伺

いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

苗の植付時に御用水を田地用水にみだりに分割することを禁じている。

明治十三年時には渴水時の御所優先を命じてあつたが、十七年のこの田

地用水への禁止を強く押し出したこ

とは、引水の御所優先の原則が、必

ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により

渴水を生じた場合には、宮内省へ伺

いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許

可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

苗の植付時に御用水を田地用水にみだりに分割することを禁じている。

明治十三年時には渴水時の御所優先を命じてあつたが、十七年のこの田

地用水への禁止を強く押し出したこ

とは、引水の御所優先の原則が、必

ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により

渴水を生じた場合には、宮内省へ伺

いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許

可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

苗の植付時に御用水を田地用水にみだりに分割することを禁じている。

明治十三年時には渴水時の御所優先を命じてあつたが、十七年のこの田

地用水への禁止を強く押し出したこ

とは、引水の御所優先の原則が、必

ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により

渴水を生じた場合には、宮内省へ伺

いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許

可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

苗の植付時に御用水を田地用水にみだりに分割することを禁じている。

明治十三年時には渴水時の御所優先を命じてあつたが、十七年のこの田

地用水への禁止を強く押し出したこ

とは、引水の御所優先の原則が、必

ずしも達成されていなかつたことを示唆している。ただし、天災により

渴水を生じた場合には、宮内省へ伺

いを出して許可することもあつたといふ。それにも拘わらず、村民が許

可無く水を田面へ流したことを窺わせる以下ののような照会が御所側から

京都府宛にでている。

御用水路之義ニ付、京都府へ御照会按当地、御所御用水路ヨリ、田面へ養水引水之為カ、時トシテ、渴水非常火防用ニ、宮中各所ニ水溜設置有之、流通乏の際は田地用水を減少させること、

とある。その他用水への塵芥投棄の取締り、また洪水時には樋門を締切り、

水害を未然に防ぐ管理が定められて

いる。

明治十七(一八八四)年に至り、勤書は改められて水番心得書として、

一一〇〇年の歴史に彩られた
古都京都の文化を育む

鴨川

鴨川は京都市北西部の賀茂川上流の

桟敷ヶ岳を水源とし、雲ヶ畑を経て鞍馬川と合流後、出町柳付近で比叡山系

を水脈とする高野川と合流して鴨川と

名を変え南流し、京都市の中心部を貫

流しながら南西方方向に流れを変えて下

鳥羽付近で桂川に注ぐ。幹線流路延長

約33km、河床勾配が1/200と急流

河川で、流域は山地が7割、約3割が

京都市の中心市街地で形成されている。

鴨川の名前の由来は、賀茂氏の氏神で

ある上賀茂神社と出町付近の下鴨神社

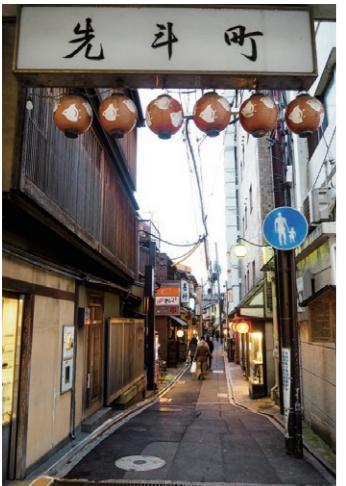
にちなみ、高野川合流点より上流は賀

茂川、下流は鴨川と、一般的に表記さ

れています。

鴨川は、平安遷都以来、都に住む人々の暮らしと密接に関わり、伏流水は生活用水や灌漑用水として人々の暮らしを支え、茶の湯に代表される京都の文化や織物、食などの様々な伝統産業を育んできました。

歴史的価値のある文化財や建築物、歴史的な街並み、また四季折々の自然や景観が楽しめる豊かな歴史と自然とのふれあいの場を形成する、魅力的な鴨川流域。京都市を訪れる年間観光客数は海外からも含め、平成26年は過去最大、5500万人の大台を突破しました



5 先斗町

寛文10年(1670)の鴨川築堤工事後に新地として開発された、鴨川沿いの三条通を一筋下がった通りから四条通にかけての先斗町。昭和10年(1935)の鴨川大洪水では浸水被害を受ける。細い道の両側には昔ながらの木造家屋の街並みが並び、日が暮れて店に灯りが点ると、いかにも京都らしい風情を醸し出す。通りに舞妓や芸妓を見かけると海外からの観光客らと一緒に記念撮影する光景もみられる。



4 鴨川デルタ

寛文10年(1670)の鴨川築堤工事後に新地として開発された、鴨川沿いの三条通を一筋下がった通りから四条通にかけての先斗町。昭和10年(1935)の鴨川大洪水では浸水被害を受ける。細い道の両側には昔ながらの木造家屋の街並みが並び、日が暮れて店に灯りが点ると、いかにも京都らしい風情を醸し出す。通りに舞妓や芸妓を見かけると海外からの観光客らと一緒に記念撮影する光景もみられる。



7 伏見稻荷大社

約一万基あるといわれている「千本鳥居」で有名な伏見稻荷は、商売繁盛の神として信仰を集め、正月には多くの人が初詣に訪れる。境内には「外国人に人気の観光スポット2015 日本国二年連続第一位」の旗が立てられているとおり、アジア系の観光客の多さに圧倒される。本殿から稻荷山に向かう際の鳥居はみごとに朱一色で美しい。帰路は、左右の鳥居柱に黒字で大きく刻まれた奉納企業名等と建之年月が眼に入り、往路とは眺めが対照的である。



6 跛上浄水場

琵琶湖を唯一の水源としている京都市の浄水場の一つ、京都市東山区にあるレンガ造りが象徴的な躰上浄水場。琵琶湖疎水完成後の明治45年(1912)に京都市が初めて給水を開始し、建設から100年が経過している。京都市の浄水場の特徴は高低差を利用した自然流下方式を採用し、松ヶ崎浄水場・新山科浄水場・躰上浄水場がそれぞれの給水区域に配水している。つつじが見頃になる春には浄水場を一般公開し、多くの市民が訪れている。



8 小枝橋

伏見「城南宮」の西側の鴨川に架かる小枝橋(現在は上流に移動)は、京に都があった時代は大坂に渡來した大陸からの文化の入口となった、重要な橋であった。その東、千本通と城南宮道の交差点には、慶応四年、明治元年(1868)正月三日、京都に向つた幕府軍と薩摩兵の間で戦いが始まったことを記す「鳥羽伏見の戦い勃発の地」の碑がある。この一戦を皮切りに約一年半にわたる戊辰戦争が始まつた。



9 加茂の御土居

豊臣秀吉によって作られた京都を囲む土壘。北端は北区の加茂川中学校付近(写真)、南端は南区の東寺の南、東端は河原町通、西端は山陰本線円町駅付近にあたる。京都と諸国を結ぶ街道が御土居を横切る場所を「口」と呼び、鞍馬口・丹波口などの地名が残る。目的は防衛と堤防らしく、御土居が北に長いのは鴨川の氾濫を市街地が流入させないためという。豊臣政権崩壊後は道路を分断していた部分の御土居が取り壊されて出入口が設けられた。

鴨川の西(右岸)、二条から五条にかけて、河原に張り出した木組みの床が設けられるのが夏の風物詩の一つの納涼床(営業は5月~9月)。営業は夜が中心であるが、5月と9月は昼も楽しめる。四条大橋から見える河岸の土手はカッピルが等間隔で並んでいて有名。なぜか等間隔の法則があるという。傾斜面に着座するカップルに求められる距離の適当な環境は6mで、他人が6m以内に入ると人は抵抗があるという。

鴨川納涼床



7 社家町

という。

鴨川は京都市北西部の賀茂川上流の桟敷ヶ岳を水源とし、雲ヶ畑を経て鞍馬川と合流後、出町柳付近で比叡山系を水脈とする高野川と合流して鴨川と名を変え南流し、京都市の中心部を貫流しながら南西方方向に流れを変えて下鳥羽付近で桂川に注ぐ。幹線流路延長約33km、河床勾配が1/200と急流河川で、流域は山地が7割、約3割が京都市の中心市街地で形成されている。鴨川の名前の由来は、賀茂氏の氏神である上賀茂神社と出町付近の下鴨神社にちなみ、高野川合流点より上流は賀茂川、下流は鴨川と、一般的に表記されている。



「志ば瀆」で有名な大原の里、高野川上流の支川呂川の清流沿いの参拝路を上っていくと大原三千院(国宝往生極楽院)に辿り着く。三千院門跡ともいい、明治四年(1871)に大原に移り三千院といえ、男性コーラスグループ「デューク・エイセス」の昭和の歌、「女ひとり(♪京都 大原三千院 恋に疲れた女が一人)」が有名だ。



3 社家町

鴨川は、平安遷都以来、都に住む人々の暮らしと密接に関わり、伏流水は生活用水や灌漑用水として人々の暮らしを支え、茶の湯に代表される京都の文化や織物、食などの様々な伝統産業を育んできました。

歴史的価値のある文化財や建築物、歴史的な街並み、また四季折々の自然や景観が楽しめる豊かな歴史と自然とのふれあいの場を形成する、魅力的な鴨川流域。京都市を訪れる年間観光客数は海外からも含め、平成26年は過去最大、5500万人の大台を突破しました



1 貴船神社



天狗が住む山として知られる鞍馬寺から西の貴船神社に続く参道には途中、火祭(時代祭と同日夜)で有名な由岐神社があり、境内には樹齢800年の巨木「大杉社の神木(京都市天然記念物)」が天に向かっている。岩盤が固く地下に根を張れない杉の根が見事なアラベスク模様を画く「木の根道」を通って更に進み、貴船川に架かる鞍馬寺西門の橋を渡つて上流に行くと、赤い鳥居の貴船神社に行くことができる。鞍馬寺、貴船神社とも四季折々の景色が楽しめる。



世界遺産「古都京都の文化財」上賀茂神社の南に位置し、独特の風情が漂う社家町。昔ながらの社家住宅が連なる街並みとして国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。このため家の修繕にも文化庁の許可が必要という。社家町と道路と挟んで流れる川は、林野で鴨川から引き込まれ、上賀茂神社の境内で御物忌川などと合流し、ならの小川と名を変え、さらに神社を出て明神川となる。

数千万年前から形を変えることなく生き延びてきたといわれている

世界最大の両生類であるオオサンショウウオ。いま、生息場所、個体数とも減少の一途をたどっていると

の報道がある。京都市の鴨川では、外来種のチユウゴクオオサンショウウオと日本産固有種との交雑が問題となっている。鴨川で平成23年度に行われた調査によると、交雑種と外

来種が全体の約90%以上を占め、在来種はわずかに4%に過ぎなかつた。

行われた調査によると、交雑種と外來種はわざかに4%に過ぎなかつた。

来種が全体の約90%以上を占め、在来種が全体の約90%以上を占め、在

間部に住む人々の重要なタンパク源として食用にされていた。一方、愛好家によりペットとして飼育されて

いた経緯もあり、飼育個体が人の手によつて本来の生息地から別の場所に移動させられたことが、交雑が進行した原因とされている。

滋賀県の琵琶湖では、愛好家により違法に放流されたとみられる北米原産のオオクチバスが生態系に大きな影響を与えていた。県の条例によりリリース（捕獲個体の再放流）を禁止している。鴨川のオオサンショウウオ交雑種問題も、心ない愛

社会による「飼育個体の放流」がそのままの発端であろうか。

好家による「飼育個体の放流」がそ

もその発端であろうか。

法による種の保存

オオサンショウウオは、国内外の絶滅のおそれのある野生生物の保護を目的とした「種の保存法（絶滅の

おそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）」で、「オオサンショウウオ属」として、生きた個体の捕獲や移動はもとより、死体やその一部の譲り渡しなども禁止されている。

ウオウオ属として、生きた個体の捕獲や移動はもとより、死体やその一部の譲り渡しなども禁止されている。

また文化財保護法では、天然記念物のうちでも世界的、または国家的に特に価値が高いものののみが指定

かつてオオサンショウウオは、山間部に住む人々の重要なタンパク源として食用にされていた。一方、愛好家によりペットとして飼育されて

いた経緯もあり、飼育個体が人の手によつて本来の生息地から別の場所に移動させられたことが、交雑が進行した原因とされている。

滋賀県の琵琶湖では、愛好家により違法に放流されたとみられる北米原産のオオクチバスが生態系に大きな影響を与えていた。県の条例によりリリース（捕獲個体の再放流）を禁止している。鴨川のオオサンショウウオ交雑種問題も、心ない愛

ようとしても、これら法令の網がかかる

ことが、交雑種問題をより深刻化させて

いる。現在は、捕獲を目的とした「種の保存法（絶滅の

おそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）」で、「オオサンショウウオ属」として、生きた個体の捕獲や移動はもとより、死体やその一部の譲り渡しなども禁止されている。

ウオウオ属として、生きた個体の捕獲や移動はもとより、死体やその一部の譲り渡しなども禁止されている。

また文化財保護法では、天然記念物のうちでも世界的、または国家的に特に価値が高いものののみが指定

され交雑種や外来種を確認された個体は、研究施設等で隔離さ



オオサンショウウオ（交雑種）

オオサンショウウオ（大山椒魚）：両生綱有尾目オオサンショウウオ科オオサンショウウオ属に分類される、世界最大の両生類。西日本に広く分布する日本の固有種。主に標高400~600mの河川の上流域に生息し、夜行性。食性は動物食で魚類、カエル、甲殻類、貝類、ミミズなどを食べ、共食いすることもある。

【写真提供：京都水族館】

鴨川の純血オオサンショウウオ 絶滅危機

上賀茂の元服儀式 幸在祭



社家町を練り歩く行列（平成28年2月24日）

上賀茂神社から流出する明神川沿いの社家町を、供物を手にした大人を先頭に、13歳未満の子供に続いて大島紬の羽織、白襟巻き、黒足袋、下駄姿の「あがり」と呼ばれる若い二人を中心とした長い行列が上賀茂神社に向かって練り歩く。一行は、町内で集まつた後、福徳社（上賀茂神社の末社）・太田神社・上賀茂神社の順に参拝する。上賀茂神社までは、笛のお囃子に合わせ太鼓や鉦を鳴らしながら、「おーめでとーござーる。どおっこい！」と掛け声をかけ、町内で練り歩きながら、上賀茂神社南の「一の鳥居」から本殿の方へと進んでいく。



奉告後は、あがりを中心に一行が並び記念撮影



5番目の列 「豊公参朝列」 安土・桃山時代

生きた時代絵巻 時代祭



鴨川に架かる三条大橋へと進む18番目の行
列（神幸列（桓武天皇を祀る後の御鳳輦を中心とする行
列の本列））（平成27年10月22日）

上賀茂神社から流出する明神川沿いの社家町を、供物を手にした大人を先頭に、13歳未満の子供に続いて大島紬の羽織、白襟巻き、黒足袋、下駄姿の「あがり」と呼ばれる若い二人を中心とした長い行列が上賀茂神社に向かって練り歩く。一行は、町内で集まつた後、福徳社（上賀茂神社の末社）・太田神社・上賀茂神社の順に参拝する。上賀茂神社までは、笛のお囃子に合わせ太鼓や鉦を鳴らしながら、「おーめでとーござーる。どおっこい！」と掛け声をかけ、町内で練り歩きながら、上賀茂神社南の「一の鳥居」から本殿の方へと進んでいく。

上賀茂神社から流出する明神川沿いの社家町を、供物を手にした大人を先頭に、13歳

水と 文化遺産としての溜池

評論家・文化プロデューサー

河内 厚郎



古代の池溝開発

LICはびきの（最寄り駅・近鉄南大阪線「古市」）に開学した「はびきの市民大学」の初代学長に就任したのは、平成13（2001）年のことである。羽曳野といえば、

応神・雄略・清寧・安閑：わが国が海外と積極的に交流した「倭の五王」の時代（5世紀前後）の天皇陵墓と見なされる巨大古墳が点在する街で、聖德太子の弟君、久米皇子の墓が市民大学の傍で出土して（2006年）話題を呼んだのもまだ記憶に生きしい。

この古市古墳群内を巡る「古市大溝」は昭和39（1964）年、航空写真によつて発見された。「LICはびきの」の建物がある輕里の、日本武尊の墓と伝承されてきた白鳥陵古墳（前の山古墳）の北東側付近から北西方向へ延びていき、仲哀天皇の

墓とされる岡ミサンザイ古墳（藤井寺市）の南東部から高鷲（羽曳野市）の中池を経て、狭山池（大阪狭山市）から流れてくる東除川に注ぐ、全長12キロメートルの水路は、6世紀から7世紀にかけて造られたと想定されている。

天野山中から流れてくる西徐川（天野川）と三津屋川（今熊川）の合流点付近を堰き止めて築造された、日本最古のダム式溜池（とされ）、狭山池の起源については、『日本書紀』崇神天皇62年7月2日の条に「今、河内の狭山の植田水少なし。是を以て其の國の百姓、農のことを怠る。其れ多に池溝を開きて民業を寬かにせよ」とあり、また『古事記』垂仁天皇の段には「印色入日子命（垂仁天皇の皇子）、血沼池又狭山池を作」とあるように、古くは4世紀から改修記録の残る7世紀まで諸説ありながら、今年が1400年記念

とされているのは、昭和63（1988）年に開始された改修工事の際、年輪年代測定により東柵に使用された木材の伐採が推古天皇24（616）年と判定されたからだ。その折、柵や堤体の構造についても詳しく調べら

れた結果、幾層にも積まれた堤体の盛り土の一部に植物層を含む層があつたことから、中国や朝鮮から伝わった敷葉工法（葉のついた枝を土に埋め込むもの）が用いられたと想定される。ただし、柵の柱を土に埋め込むと、朝鮮半島の百濟から宮大工の金剛重光を招いて四天王寺など古代寺院の建立が始まる（金剛重光の末裔が大阪市天王寺区に本社を置く世界最古の企業「金剛組」である）。

7世紀に入ると、難波から飛鳥へと到る最古の官道（国道）が敷かれ、朝鮮半島の百濟から宮大工の金剛重光を招いて四天王寺など古代寺院の建立が始まる（金剛重光の末裔が大阪市天王寺区に本社を置く世界最古の企業「金剛組」である）。7世紀に入ると、難波から飛鳥へと到る最古の官道（国道）が敷かれ、朝鮮半島の百濟から宮大工の金剛重光を招いて四天王寺など古代寺院の建立が始まる（金剛重光の末裔が大阪市天王寺区に本社を置く世界最古の企業「金剛組」である）。7世紀に入ると、難波から飛鳥へと到る最古の官道（国道）が敷かれ、朝鮮半島の百濟から宮大工の金剛重光を招いて四天王寺など古代寺院の建立が始まる（金剛重光の末裔が大阪市天王寺区に本社を置く世界最古の企業「金剛組」である）。7世紀に入ると、難波から飛鳥へと到る最古の官道（国道）が敷かれ、朝鮮半島の百濟から宮大工の金剛重光を招いて四天王寺など古代寺院の建立が始まる（金剛重光の末裔が大阪市天王寺区に本社を置く世界最古の企業「金剛組」である）。



昆陽寺



行基上人の歌碑

天智7（668）年に生まれ、天武11（682）年に出家した行基（668～749）は、仏法を説きながら各地を回り、池を造り、溝を掘り、道路を整備し、橋を架け、多数の院と尼院を建立して民衆の崇敬を得ていった。そんな行基の活動を国は初め弾圧したが、しだいに受け容れるようになり、やがてはそのカリスマ性を利用するようになると変わっていく。行基は自身の生まれ故郷である和泉国に、檜尾池院（堺市南区）、鶴田池院（堺市西区）、久米田池（岸和田市）

のほとりの隆地院（734年建立の久米田寺）など、改修した池のそばに灌漑施設と結びついた院を次々と建立して管理施設の役割を持たせていった。天平3（731）年には狭山池の改修も手がけ、狭山池院と尼寺を建てたと『行基年譜』は記している。行基上人が生まれ育った和泉国大鳥郡（堺市西区）は、海外から渡来した最新の文化・知識・技術が古くから定着していった土地柄であり、

行基の父（高志才智）も母（蜂田古爾比売）も百濟からやつてきた渡来人の子孫であった。天平5（733）年、65歳のとき、摂津国の中南部に昆陽池（伊丹市）を築造した行基が、その2年前に建てた昆陽寺の境内には「山鳥のぼろぼろとなく聲さけば父かとぞ思ふ母かとぞおもふ」という歌碑が建っている。

当時、昆陽野の一帯は「猪名野・笛原」という歌枕にもなつた景勝地であったが、大雨が降るたび洪水の被害を受けたので、中国朝鮮渡來の土木技術と技術者の協力を得た上人は、洪水や水不足でも困らぬよう、5つの用水池と3つの灌漑用水路を造り、旅先で困つた人々や病人のため昆陽施院を開設したのであつた。

昆陽池公園には、紫式部の娘である大式三位の歌碑をはじめ、文学碑が13基あり、なかでも昆陽池の西側から昆虫館（池の北東）までつづく「ふるさと小径」の6百メートルほどの沿道には、高市連黒人、慈円、藤原定家、西行、日野草城、待賢門院堀河——6基の碑がある。慈円（1155～1225）の歌碑には

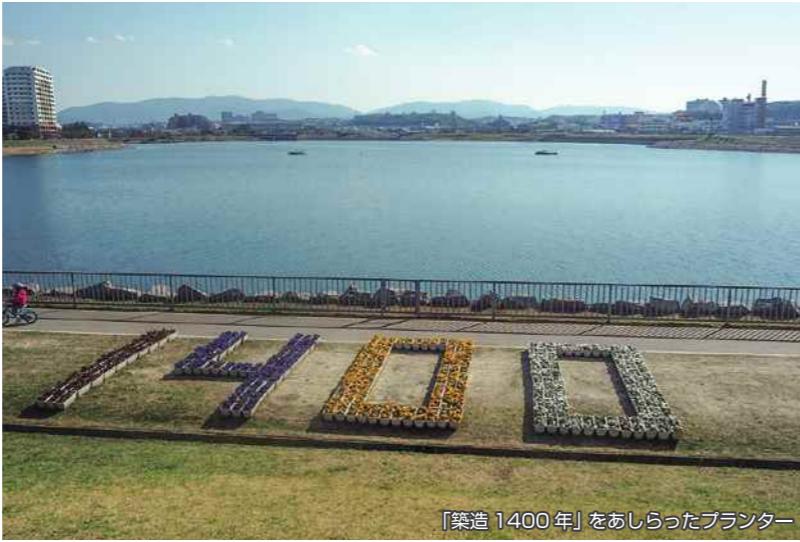
「ゑにかきて今唐土の人に見せむ／なくて昼ハ霞むやこやの池」。昆陽

霞わたれる昆陽の松原」と刻まれているから、名勝に富む唐土（中国）の人々に今すぐにでも絵に描いて見せたいと思わせるほど風光明媚だったと知れよう。栄華を極めた関白・藤原道長の別荘もあつたという昆陽野は、平安末期、遷都の有力候補地となつたこともあつた。

伊丹出身の俳人、上島鬼貫（1661～1738）の句碑は「月

15

14



ダム本堤側にある中樋出土地点のプレート

池の西側にある西樋出土地点のプレート

末永雅雄博士の胸像



大阪府立狭山池博物館

ある西樋は、近世では池の水を使い切る重要な役割をになっていたが、宝永元（1704）年の大和川付け替えまで、現在の大阪市域の南部にまで至る、80か村、約5万5千石を狭山池が灌漑していたのである。

『雨月物語』の作者として名高い大阪の文豪、上田秋成（1734～1809）が「河内なるさやまの池の廣ければ稻葉かりこむ舟も見えけり」と歌つた狭山池は、昭和63（1988）年から10年以上かけたダム化工事により、洪水調整機能を備え、池の周囲は公園として設備されれた。昭和57（1982）年の洪水被害を受け、農業用の溜池から治水ダムに生まれ変わったのである。

平成13（2001）年には狭山池の保存と公開を目的とした大阪府立狭山池博物館（安藤忠雄・設計）が池の北側に開館。改修工事の際に切り出した堤体の実物展示により断面を見ることが出来るようになった。

池の中には神社も祀られてきた、この最古のダム式溜池の傍に生まれ育つて、日本考古学の礎を築き、古墳の発掘（1972）でも名をはせたのが、末永雅雄（1897～1991、大阪狭山市名誉市民）である。航空機による古墳観察を初めて実践したのも末永であった。

いのは兵庫県で、それも東播磨に集中し、天満大池（稻美町）は白鳳3（675）年の建築という。行基や空海や重源といった著名人の指導によらず、名もなき民が當々と築いたのが東播磨の溜池群なのだと、加古川在住の作家、玉岡かおる氏は誇らしげに語っている。



池は昼もおぼろに霞んで周りがよく見えないというのであるが、今から210年前の「昆陽池付近絵図」（1806）を見ると、「東西差渡シ三百八間」と書き込まれていて、これはメートル法に換算すると、東西直径909メートル、南北560メートル。

対角線なら優に1キロメートルは超えていたであろうから、鬼貫や慈円が「霞む」「霞わたれる」と表現しに築造された昆陽池は、周囲4キロメートルの巨大な姿を1200年以上も保っていたが、昭和40（1965）年からの都市公園化工

に昆虫館、ふるさと小径、貯水池、草生地広場、多目的広場などが出現。現在の水面は往時の4分の1ほど、離陸した直後の飛行機の窓から眼下に眺めを楽しむことができる。

冬にはカモやカモメなど5千羽もの渡り鳥が渡来し、白鳥が自然放養されている昆陽池公園は関西屈指の野鳥の楽園だが、狭山池も、カツブリ（鳩）、ケリ、ユリカモメ、小サギ、カワセミなど野鳥の名所となっている。



昆陽池で見られる水鳥たち

天平宝字6（762）年の朝廷に源（1121～1206）の『南無阿弥陀仏作善集』が記す大規模な改修については、和泉砂岩製で建てられた「重源狭山池改修碑」の発見により、建仁2（1202）年のことと確認された。碑文には、摂津・河内・和泉の人々の要請により改修されたこと、被差別の「非人」も含めたあらゆる人々が工事に協力したことが記されていて、重源が石樋に使った石棺も新たに数多く出土している。

関ヶ原の役があつた慶長5（1600）年には小田原から来た北条氏が治める狭山藩の陣屋が池の東畔に置かれて、慶長13（1608）年には片桐且元が豊臣秀頼の命により慶長の大改修を行っている。その折に原型のつくられた西樋の四番樋が見つかった。狭山池で最大の樋で

悠久の1400年

見えないというのであるが、今から

えていたであろうから、鬼貫や慈円が「霞む」「霞わたれる」と表現したのも誇張ではなかつた。奈良時代

に昆虫館、ふるさと小径、貯水池、草生地広場、多目的広場などが出現。現在の水面は往時の4分の1ほど、離陸した直後の飛行機の窓から眼下に眺めを楽しむことができる。

天平宝字6（762）年の朝廷に源（1121～1206）の『南無阿弥陀仏作善集』が記す大規模な改修については、和泉砂岩製で建てられた「重源狭山池改修碑」の発見により、建仁2（1202）年のことと確認された。碑文には、摂津・河内・和泉の人々の要請により改修されたこと、被差別の「非人」も含めたあらゆる人々が工事に協力したことが記されていて、重源が石樋に使った石棺も新たに数多く出土している。

関ヶ原の役があつた慶長5（1600）年には小田原から来た北条氏が治める狭山藩の陣屋が池の東畔に置かれて、慶長13（1608）年には片桐且元が豊臣秀頼の命により慶長の大改修を行っている。その折に原型のつくられた西樋の四番樋が見つかった。狭山池で最大の樋で



図-6 1万分1地形圖「御影」陸地測量部(昭和10年6月30日発行)

時に出かけるねんなあと、幸子が云つたことは云つたけれども、今朝は妙子は夙川ではなしに、午前中には山村野寄の洋裁學院へ行く日だったので、これぐらゐな雨何でもあれへん、水が出たら却つて面白いわ、などと冗談を云ひく出て行つたのを、止めないでしまつた。たゞ貞之助だけは今少し小降りになるのを待つ積りで、書齋で調べ物などをしながらぐづくしてみると、やがてけげた、ましいサイレンの音を聞いたのであつた。」

ここで、貞之助の家族とその家の周辺の様子を説明しておきますと、家族は主人貞之助、妻幸子、娘悦子（小学生）、幸子の妹妙子、女中お春他2人で、住居は、北を東海道本線、南を阪神国道、東を蘆屋川で囲まれた川から西7、8丁の津知、したがつて悦子の小学校は阪神国道と阪神電気鉄道を南へ渡り、蘆屋川に架かる永保橋を東へ渡つた精道小学校となるのでしようか。また、東海道本線の北側の山手には阪神急行電気鉄道が、南側の阪神国道には路面電車（阪神国道電気軌道）とバスが通つていました。

（貞之助は直ぐに小學校へ電話を懸けてみたけれども、既に不通になつてゐた。よし、そんなら僕行つて来る、と、彼は幸子に云つたが、幸子が何と答へたかは覚えてゐない。半丁ほど行つて振り返ると、後からお春が尾いて來るのに心づいた。何や、お前は附いて來んかてえ、歸んなさいと怒鳴ると、はい、其處まで行かして戴きます云ひながら追つ来て、旦那さん、其方へいらしつたらあきません、此方の方がよろしうござりますと、東へ行かずに、南へ真つ直ぐに下つて行くので、貞之助もそれに従つて國道まで出た。そしてなるべく南の方へと迂回して、阪神電車の線路の北一二丁程のところまでは、大して水に漬からずに來ることに成功したが、小學校へ達するのには、その邊でどうしても東へ横切らなければならなかつた。が、幸ひその邊は水が淺くて長靴とすればすぐらゐの深さしかなく、阪神の線路を越えて舊國道の手前まで來ると、意外にも一層淺くなつていた。その時漸く行く手に小學校の建物が見え、生徒たちが二階の窓から顔を出してゐるのが分つたが、あゝ、學校は別條ない、あゝよかつたと、後の方でひどく興奮した聲で獨語を云ふ者が

「貞之助が小學校へ行つて歸つて來る迄の間に住吉川の氾濫の状況がやゝ傳はつて來て、國道の田中から以西は全部大河のやうになつて濁流が渦巻いてゐること、従つて野寄、横屋、青木等が最も悲惨であるらしいこと等々がほんやり分つて來たが、鐵道線路を傳はれば本山驛までは行けるというのであるから、兎に角行けるところまで行つて、自分の眼を以て確かめて來ようと又出かけた。鐵道線路に沿うて行くとして、野寄までは一里強ぐらゐなものであらうか。散歩好きな貞之助はあの邊の地理をよく知つてをり、洋裁學院の建物の前も度々通つてゐるのである。その建物は、省線の線路が本山驛を出て西へ十數丁行つたあたりの直ぐ南側に、一本の道路を隔て、甲南女學校がある、その女學校から少し西へ寄つた所、線路から云へば南へ直徑一丁ほどの地點にあるので、もし線路上をその女學校の附近まで傳はつて行けるものとすれば、或は洋裁學院へも到達し得るかも知れず、し得ない迄も、その建物の被害程度を探ることぐらゐは出來さうに思へたのであつた。」

本駅より西方の地形図を示しておきます。北西隅から南東に住吉川が流れ、岡中程の六甲山麓には甲南高等學校、阪神急行電氣鐵道の直ぐ北側に野寄、本山村、岡本、田邊の地名、東海道本線の北には本山第二小學校、南には甲南女學校と田中の地名が見えます。

「家から半丁ほど北のところで線路へ上つた。時々甲南高等學校の生徒が二三人づゝかたまつて來るのに行き遇ひ、呼び止めて様子を聞くと、本山驛から先が本當(ほんとう)に大變なのです、もう少し歩いていらつしやれば向うが全部海のやうになつてゐるのが見えますと、誰も同じやうな答をする。野寄の、甲南女學校の西の方へ行きたいのですがと云ふと、さあ、あの邊は恐らく一番ひどいのではないかでせうか、今頃は線路の上も、西の方は埋没してしまつたかも知れません、など、云ふ。

本山驛を過ぎて散歩の時に覺えのある田中の小川に架した鐵橋の上に立ち止まって前方を眺めた時、さつき甲南學校の生徒が『海のやうだ』と云つたのは、今自分の眼前にある此の景觀のことなのだと合點が

9. 谷崎潤一郎記念館門前の巨石



写真-3 旧谷崎邸の巨石(重さ15トン)

つき自分が生徒たちと一緒に通つて
來た路、——本山驛と此の列車と
の間の線路は、完全に水に没し去つ
て、此の列車のある所だけが嶋のや
うに残つてゐた。」

方を望むと、ちやうど本山第二小學校の建物の水に漬かつてゐるのが眞北に見え、一階南側に列んでゐる窓が恰も巨大な闇門のやうに夥しい濁流を奔出させてゐるのであつたが、あの小學校が彼處に見えるとすると、今此の列車の停つてゐる位置は甲南女学校を東北に距ること僅々半丁程の地點であることは明かであり、従つて、此處から目的の洋裁學院へは、平日ならば數分を出でずして到達出来る譯であつた。」

つき自分が生徒たちと一緒に通つて
來た路、——本山驛と此の列車と
の間の線路は、完全に水に没し去つ
て、此の列車のある所だけが嶋のや
うに殘つてゐた。』

「貞之助が小學校へ行つて歸つて來る迄の間に住吉川の氾濫の状況がやゝ傳はつて來て、國道の田中から以西は全部大河のやうになつて濁流が渦巻いてゐること、従つて野寄、横屋、青木等が最も悲惨であるらしいこと等々がぼんやり分つて來たが、鐵道線路を傳はれば本山驛まで角行けるところまで行つて、自分の眼を以て確かめて來ようと又出かけた。鐵道線路に沿つて行くとして、野寄までは一里強ぐらゐなものであらうか。散歩好きな貞之助はある邊の地理をよく知つてをり、洋裁學院の建物の前も度々通つてゐるのである。その建物は、省線の線路が本山驛を出て西へ十數丁行つたあたりの直ぐ南側に、一本の道路を隔て、甲南女學校がある、その女學校から少し西へ寄つた所、線路から云へば南傳はつて行けるものとすれば、或は洋裁學院へも到達し得るかも知れず、し得ない迄も、その建物の被害程度を探ることぐらゐは出來さうに思へたのであつた。」

図1-6に、阪神急行電気鉄道の岡

砂防堰堤

～河川上流から下流まで一体的にとらえ土砂災害から守る～

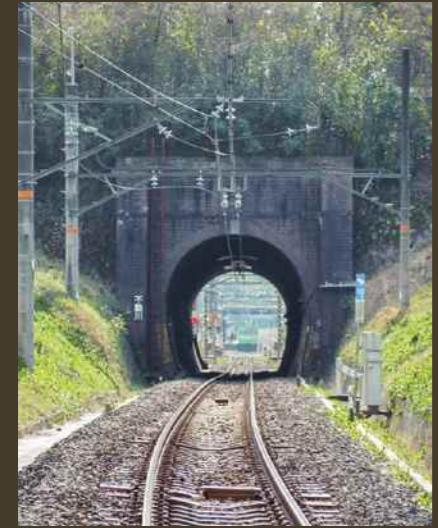
六甲山地の歴史的な砂防施設

五助堰堤

江戸時代初期は、まだ普通の川であった淀川水系木津川流域の不動川流域。明治初頭に入ると建築物用材や燃料として乱伐され続けたため禿げ山となり、大雨の後は激しい流出土砂であったという。江戸幕府も治山に努めていたが、村が負担する費用面で対策は形骸化し実効性がなかった。明治政府が招聘したオランダ人技師ヨハニス・デ・レーケにより明治8年、不動川支流の相谷で西欧の知見が導入

不動川砂防施設

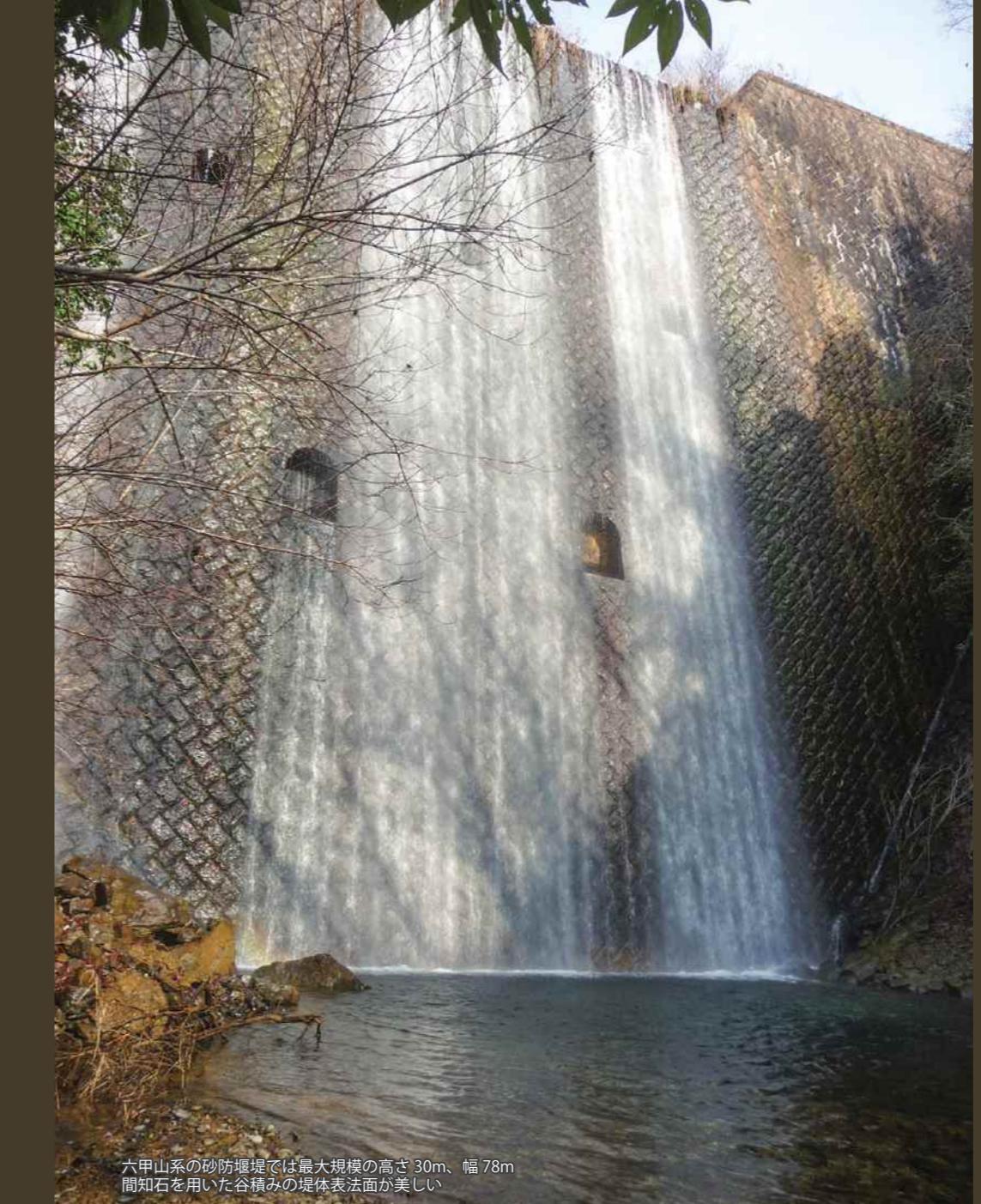
デ・レーケによる近代砂防工事発祥の地



JR 奈良線のトンネルの上を流れる不動川(天井川)
トンネルの左に「不動川」の文字

江戸時代初期は、まだ普通の川であった淀川水系木津川流域の不動川流域。明治初頭に入ると建築物用材や燃料として乱伐され続けたため禿げ山となり、大雨の後は激しい流出土砂であったという。江戸幕府も治山に努めていたが、村が負担する費用面で対策は形骸化し実効性がなかった。明治政府が招聘したオランダ人技師ヨハニス・デ・レーケにより明治8年、不動川支流の相谷で西欧の知見が導入

デ・レーケによって開拓されたキャンプ場となっている。



六甲山系の砂防堰堤では最大規模の高さ30m、幅78m
間知石を用いた谷積みの堤体表法面が美しい



昭和42年7月の豪雨で土石流が発生し、一夜にして土砂で満砂になった堰堤の上流側
(尾瀬沼のような木製歩道がハイキングコース)



デ・レーケが指導し造られた堰堤群の一つ第5堰堤(高さ3.5m、幅23m、切石の谷積み)
堰堤の後方には建立されたデ・レーケの胸像と記念碑が見える

された16種類の工法による試験的な砂防工事が行われた。これを教材に現地指導にした「デ・レーケ砂防」と云われる工法は、砂防職員の教科書になつたという。砂防施設群は記念すべき近代化された住吉川の上流にある五助堰堤(平成26年10月、文化庁の登録有形文化財に指定)。六甲山地は風化した花崗岩で覆われ、大雨・長雨で崩れやすく数多くの土砂災害が発生していた。昭和13年(1938)7月の神戸市及び阪神地区で発生した「阪神大水害」を契機に、六甲山地119番目の堰堤として昭和32年3月に完成。完成後10年間は土砂が貯まることなく無用の長物とされたが、昭和42年7月の集中豪雨では、五助谷で発生した約12万m³の土石流を受け止め、下流への被害を防止した。

五助堰堤へは、住吉川に沿って歩くハイキングコースほか、JR住吉駅から登山道手前の住吉台まで小型バス(住吉台くるくるバス)に乗つて行くルートがある。ハイキングコースは、地元住民の散歩に、またバーベキュー等を楽しむハイカーが多く訪れている。堰堤手前のビューポイントには、砂防施設管理者による施設の説明案内が設置されている。

神戸市の灘区
と東灘区の境、
六甲山地から流